

## 平成28年度第2回スポーツ推進審議会 議事概要

### 1 米子市スポーツ推進計画の策定について

委員 全体を通して見て、米子市の目指す姿を総合的に書いてあるが、この米子市のスポーツ政策の課題がもう少し分かりやすく、今の課題は何だという形で出していただければ良いのと思う。

また数値目標をスポーツ実施率にされたというのは非常に良かったと思う。

ただ、障がい者のスポーツ実施率を入れていただきたい。

障がい者の方も含めてやっていただくのが、これからの体育施設のことであるとか、地域環境であるとか、課題をクリアし、共生社会を作っていくひとつのステップになるのではないかと思う。

事務局 国のスポーツ基本計画のほうで課題ということで政策課題7つ挙げており、この中で国際競技力とか、オリンピック・パラリンピックを通じた国際貢献、スポーツ界の透明性など、市町村のスポーツ推進計画には馴染まない部分もあるが、それ以外の部分は子どものスポーツの機会の充実、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進、あるいは住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備など市の計画の中でも記載の順序だてが国とは違いますが触れたつもりです。スポーツ実施率、数値目標のことについてですけれども、アンケートをとる際に、年齢ですとか、障害のあるなしとか、可能な限り細分化して分かるようなアンケートの方法を考えてまいりたいと思います。

委員 障がい者のスポーツ実施率については、県が行っている。

一昨年の数値で、1週間に30分以上の運動を行っている方は25.4%だった。

県の障がい福祉課からデータをもらったらいと思う。

委員 数値目標の設定についてだが、現状（平成25年数値）で成人の週1回以上のスポーツ実施率は53.9%でかなり高い数値だが、これなら特段向上を考えなくてもよいのではないか。

事務局 今回の目標値は成人の週1回のスポーツ実施率が65%、成人の週3回の実施率が30%で国、県の目標と横並びだが、それらの目標を下回る数値を掲げても意味がないと思い設定した。

委員 私も多いなと思った。年代別に20代から30代の人にもアンケートを取ること

が必要ではないか。高齢者の方はよく運動されている。

事務局 平成25年度のアンケートの際、別年代別のアンケートもとっておりまして、やはり30代40代の方が5割を切っているということで、その年代の方は実施率が低い。

一番実施率が高いのは10代16歳～19歳ということでクラブ活動等もありますので、それも含めてだと思のですが、次に高いのは70歳以上の方で66%という結果になっている。

委員 私は高齢者ですけど高齢者は地域性があると思います。近くに公民館がある人は声かけをしたら外に出てきます。それで生き生きサロンとかGOGO体操とか、お茶を飲みながら体を動かす柔軟体操とかやっている。場所が遠い人はどうでしょうね。公民館とかそういう施設の少ないところは出席率がどうでしょう。地域性が関わってくると思います。

委員 50年ぶりにスポーツ振興法が基本法に全面改正され、この違いがスポーツを通じての幸福度の追求という人の権利だとか、青少年の健全育成、地域社会の再生、健康の保持はもちろん、経済的な面での活力、国際的な地位の向上、色んな多面的な役割を果たすという趣旨があると思う。

それを踏まえて、米子市の今後の目指すスポーツ政策のあり方、方向性をもう少し触れてもいいのかなという気がします。

現行は体育課ということでやっており、学校体育、社会体育、地域での活動がメインになっている。それ以外の個別の選手の育成とか競技力の向上、オリンピック・パラリンピックを通じての当地の活性化、国際交流、また新たな産業の掘り起しにも繋がっていく可能性もある。そういう大きな視点にも触れてもいいのかなという気がします。

体育課ですから、教育委員会の組織の中で教育委員会だけの問題にしていいのかなと感じます。行政側も、もう一回考えてみなければと思います。

委員 先日国のスポーツ基本計画の中間まとめが出たが、「スポーツが変える、未来を創る。」というのがスローガンになっている。

スポーツを使って人の絆を深めていって地域のコミュニティを作る、障がい者との共生の社会を作る、キャンプ地誘致をして地域を変えるなど。

島根県邑南町が、東京パラリンピックでフィンランドのゴールボールチームを誘致している。フィンランドの優れた子育て支援を学ぶために誘致する。

また、競技力の観点では、その地域で日本代表が出ることは地域にとって非常に

誇りになる。

そういうことを含めて、その地域全体を大きく見回しながらやっていく。

健康づくりのだと鳥取大学医学部と連携してどうしたら健康寿命が延びるのかという独自のプログラムを一緒になって考えると。

どうやって地域を元気にして、スポーツが一生涯みんなを支えていき、本当に米子に住んでいて良かったなという街にしていく、というような大きな視点での計画が必要だと思う。

国の中間まとめがでているので、それを参考に鳥取県スポーツ推進計画もあと2年くらいでこの計画を盛り込んでまた見直されると思う。

その先を米子市にってもらいたい。

事務局 もともと体育教育の取り組みを従来やっておりましたが、法律が改正され、もっと広い視点で世の中の社会環境だとか考え方も変わってくる中、障がい者のスポーツであったり、これまでは「するスポーツ」が中心だったが「観るスポーツ」であったりとか人が集まるイベントとしてのスポーツを開催してそれを地域の活性化に繋げるというような考え方ができたところです。

そういったところも意識し、基本施策の中で、障がい者スポーツ活動の推進、スポーツに触れる機会の提供としてプロスポーツの支援活動、トライアスロン大会、皆生・大山SEA TO SUMMITなどの取り組みについても横の連携を図りながら進めていきたいという考えで整理している。

委員 一応形計画について方向性が出てきたが、10年という期間は少し長すぎるのではないか。

中間くらいまでに一回変更点を押さえては。これから先、この中の委員にはいろんな部門の専門の方がおられます。この方々のお知恵をお借りして問題点を協議し、計画に反映してゆけばよいと思う。

事務局 国の基本計画では「スポーツを通じすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」を創出すると言っているが、これを米子市の計画では基本理念として、「すべての市民がスポーツに親しみ、健康で豊かに暮らせるまちよなご」とい表現している。

具体的なものではないが、これが基本方針。

年齢、性別、職業、障がい等の有無を問わず、すべての市民が様々な形でスポーツに関わることにより、本市が心身ともに健康で豊かに暮らせるまちとなることを基本理念として掲げる、ということであり、それを実現するために各施策があるので、それを充実させるためにここにおられる皆様のお力を今後ともお借りし

ていきたい。

委員 「する」「観る」というスポーツもあるでしょうが、もう一方で経済の活性化も含めて考えると「支える」というスポーツもある。そういうところを掘り下げていくと、地域がスポーツする人ばかりではなく、経済の部分も含めてよりスポーツを通じた地域のスポーツ環境の活性化になるのではないかと感じている。これを基にしながら「支えるスポーツ」というものも提案できたらと感じる。

事務局 「実施するスポーツ」「観る視点でのスポーツ」あるいは「経済的な活動」について計画の中でも触れているが、今述べられた「支えるスポーツ」というのは地域のコミュニティの形成ということだと思います。

地域のスポーツ活動の推進、地域で指導的な役割をしておられるスポーツ推進委員とか公民館単位のスポーツサークル、そういった地域での横の繋がりというものもあるので、それらを現状より充実を図っていく方向で、スポーツだけに留まらない地域の支えあいの役にも立てるのではないかと思う。そういう観点で事業施策を進めていきたいと考えております。

委員 今後は、総合型スポーツクラブが重要になってくると思う。ぜひやってほしい。競技団体をうまく使って、出雲では競技団体が総合型クラブのような形で活動しており、競技団体が競技の普及のために教室を開いたりするような形も考えていかなければならない。

北栄町あたりは町の体育協会の加盟団体が総合型クラブを運営して一生懸命やっている。教室もやっているので上手く活用して市の総合型クラブとしてやっていけばいいと思う。

事務局 教室等、昨年から指定管理者の自主事業でやる計画があったが、事情があり今年度実施できていない。ヨガ教室、陸上教室、そういったものをやる計画でしたので、来年度仕切り直して考えていきたい。

会長 そうすると、この計画案について、成案の方向でいかせていただいてもよろしいか。

委員 会長にチェックをしていただいて、今日の意見を提案をしていただくという方向がいいのではないか。

会 長 今日貴重な意見をいただいた。とりあえず今の段階でこれを、成案とさせていただきます。よろしいでしょうか。

(拍手)

事務局 承認いただいたこの計画について、今後市長まで報告を上げるが、その際には、今日皆様から頂いた意見について付記する形で上げたい。